

令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

都・道・府・県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
三木市立三樹小学校（外15校）	三木市教育委員会	国・ <input checked="" type="radio"/> 公・私

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等
三木市立三樹小学校	www.miki.ed.jp/el/sanju/index.cfm/17,html	www.miki.ed.jp/el/sanju/index.cfm/17,html
三木市立平田小学校	www.miki.ed.jp/el/hirata/index.cfm/17,html	www.miki.ed.jp/el/hirata/index.cfm/17,html
三木市立三木小学校	www.miki.ed.jp/el/miki/index.cfm/17,html	www.miki.ed.jp/el/miki/index.cfm/17,html
三木市立別所小学校	www.miki.ed.jp/el/bessho/index.cfm/16,html	www.miki.ed.jp/el/bessho/index.cfm/16,html
三木市立志染小学校	www.miki.ed.jp/el/sijimi/index.cfm/20,html	www.miki.ed.jp/el/sijimi/index.cfm/20,html
三木市立口吉川小学校	www.miki.ed.jp/el/kutiyo/index.cfm/16,html	www.miki.ed.jp/el/kutiyo/index.cfm/16,html
三木市立豊地小学校	www.miki.ed.jp/el/toyoti/index.cfm/18,html	www.miki.ed.jp/el/toyoti/index.cfm/18,html
三木市立緑が丘小学校	www.miki.ed.jp/el/midori/index.cfm/20,html	www.miki.ed.jp/el/midori/index.cfm/20,html
三木市立緑が丘東小学校	www.miki.ed.jp/el/midohi/index.cfm/16,html	www.miki.ed.jp/el/midohi/index.cfm/16,html
三木市立自由が丘小学校	www.miki.ed.jp/el/jiyu/index.cfm/14,html	www.miki.ed.jp/el/jiyu/index.cfm/14,html
三木市立自由が丘東小学校	www.miki.ed.jp/el/jiyuhi/index.cfm/15,html	www.miki.ed.jp/el/jiyuhi/index.cfm/15,html
三木市立広野小学校	www.miki.ed.jp/el/hirono/index.cfm/16,html	www.miki.ed.jp/el/hirono/index.cfm/16,html
三木市立中吉川小学校	www.miki.ed.jp/el/nyokowa/index.cfm/1,html	www.miki.ed.jp/el/nyokowa/index.cfm/1,html
三木市立東吉川小学校	www.miki.ed.jp/el/hyokawa/index.cfm/18,html	www.miki.ed.jp/el/hyokawa/index.cfm/18,html
三木市立上吉川小学校	www.miki.ed.jp/el/kyokawa/index.cfm/1,html	www.miki.ed.jp/el/kyokawa/index.cfm/1,html
三木市立みなぎ台小学校	www.miki.ed.jp/el/minagi/index.cfm/1,html	www.miki.ed.jp/el/minagi/index.cfm/1,html

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1・2学年の「生活科」6時間を削減して、「外国語活動」に充てる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性
次代を担う子どもたちに、ふるさとの歴史や文化、伝統産業の素晴らしさを伝え、ふるさとを愛する豊かな心を育成してきた。これまで取り組んできた「ふるさと教育」や「心の教育」を基盤として、今後のグローバル化に対応できる子どもたちを育むため、小学校低学年から「聞く」「話す」などの体験を中心とした「外国語活動」に取り組み、豊かな国際感覚を育てる。

(3) 特例の適用開始日

- ・ 特例の適用開始日 : 平成 28 年 4 月 1 日
- ・ 変更した特例の適用開始日 : 平成 30 年 4 月 1 日

(4) 取組の期間

- ・ 取組の終期 : 令和 3 年 3 月 31 日

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・ 実施していない

4. 実施の効果

本教育課程の編成は、平成 28 年 4 月から平成 30 年 3 月までは、小学校第 1・2 学年だけではなく、第 3 学年から第 6 学年においても外国語活動を教育課程内に位置付け、実施してきた経過がある。平成 30 年 4 月から新しい学習指導要領への移行期間となり、これまで特別な教育課程として行ってきた外国語活動が、第 3・4 学年の外国語活動、第 5・6 学年の外国語として通常の教育課程内に位置付けられた。これまでの教育課程特例校での外国語活動の学習の積み上げにより、新しい学習指導要領にスムーズに移行され、継続的に取り組むことができた。また、高学年での外国語の教科化に対応できるよう、小学校外国語研修部会と連携し、研究を行った評価方法や効果的な外国語の指導方法などを活用し、より効果的な外国語指導を行った。

具体的な学習内容としては、小学校には 6 人の A L T を配置し、特別活動やモジュールの学習などで英語学習と関連した内容を取り入れたり、給食や清掃の時間にも A L T とふれあ

ったりするなど、学校生活全般においてネイティブの英語に親しむ時間を確保した。また、外国語活動と関連のある学習として、日本とは異なった文化について地域の方に説明していただく活動や、留学などで来日されている学生にそれぞれの国を紹介していただくなどの交流を通じて、異文化や多様な価値観に触れる機会を設定した。加えて、外国にルーツを持つ子どもが母語でのあいさつを紹介する活動を設定するなど、子ども同士での交流も進んでおり、異なった文化に対する理解が進んでいる。

取組の成果の1つとして、平成31年度全国学力・学習状況調査（令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国学力・学習状況調査は未実施）の児童質問紙の問いにおいて、「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っていますか。」という質問に「当てはまる。」と答えた児童が45.7%おり、全国平均の39.2%と比べて高い割合である。また、「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人に知ってもらいたいと思いますか。」という質問に対しても「当てはまる。」と答えた児童が、49.4%となっており、全国平均46.7%と比較して、同様に高い傾向である。

また、夏休みに小学校全学年を対象に実施しているイングリッシュキャンプにおいて、毎年180名の枠を大幅に超えた参加申し込みがあり、英語に親しむ機会に主体的に参加しようとする児童が多くいることも、成果の1つであると言える。

(指標) 英検を受験する生徒の割合（中学生の英語に対する興味、関心の度合を見る。）

区分（項目）	実績値					目標値
	H27	H28	H29	H30	R1	R2
英検を受験する生徒の割合	15.6% (315/ 2,016人)	14.0% (281/ 2,005人)	16.0% (318/ 1,985人)	17.3% (331/ 1,914人)	17.4% (331/ 1,906人)	30.0%

小学校1年生からの外国語活動の充実は、中学校においても英語に対する学習意欲の向上につながっている。英検を受験する生徒の割合は、平成28年度には一旦低下したが、平成29年度から再び徐々に上昇している。今後、さらに英検を受験する生徒の割合を増やすため、小学校段階からの「話せる英語教育」の更なる充実を図っていく。また、小学校と中学校の連携を図り、継続した英語教育の充実に取り組んでいく。

5. 課題及び改善のための取組の方向性

三木市の全小学校で特別な教育課程を編成しているため、全市的な取組として研究を進め、同一歩調で英語活用能力の向上を図る必要がある。市教育委員会が主導し、特別な教育課程の編成に向け、小学校の教職員全員を対象とした研修を企画したり、実践経験のある有識者を招いて校内で研修を行ったりするなど、教職員の外国語活動への意識を高めてきた。引き続き、外国語活動研修部会の授業プログラム研究やカリキュラムの検討と連携し、研修部での研究をより多くの教職員に広めていきたい。

また、授業プログラムやカリキュラムなどの指導内容、指導方法の開発とともに、指導と評価の一体化をめざし、評価方法について研究している。本教育課程の目標が、英語にふれ

ながら表現を楽しむことにあることから、学習に取り組もうとする態度を評価する場面が多くなる。その考え方や具体的に見取る方法などの研究が、第3学年以上の外国語活動、外国語における評価方法や指導にも繋がるよう更に取り組んでいきたい。外国語教育に関わる教職員の指導力向上を図るため、教職員研修の充実を図るとともに、「小中連携・一貫教育」推進の取組と関連付け、9年間を見通した「めざす子どもの姿」を小・中学校で共有し、継続的な英語教育を推進していきたい。

グローバル化が進展する社会での活躍に向けて、子どもたちは、相手をより理解するための語学力やコミュニケーション能力の基礎を身に付けることが必要である。そのために、令和3年度以降も教育課程特例校の申請を行い、これまでの成果を基に、新しい言語などを急速に吸収する児童期である小学校低学年から、「聞く」「話す」などの体験を中心とした英語教育を推進し、豊かな国際感覚を育てる。また、異なる文化や価値観への理解を深め、国際的な視野に立ち行動する資質や日本人としてのアイデンティティを育成に繋げていきたい。